

## ライフケアガーデン湘南(2階)

症例概要 利用者：70代後半 女性 要介護3

利用期間：2022年7月 ～ 2022年2月

経過：薬剤師として総合病院勤務を続けていた。退職後70代になり物忘れが増えた為、病院受診にてアルツハイマー型認知症と診断される。夫との2人暮らしの中、夫の病態に対する理解度が難しく十分な介護ができない状況であった。ひとり息子が介入するとかえって不穏になり、徘徊をして警察沙汰になる事の繰り返しであった。ご本人の心理的動揺も強く、自宅介護は困難となり当施設入居となる。ご家族の介護負担の軽減を図り、ご本人が安心して穏やかに施設での生活が送れるように援助した症例

### 内 容

入居前、認知症治療薬を処方されていたが拒否が強く内服管理が十分に出来ずに飲めていない状況であった。

入居後は環境の変化も伴い、常に表情が陰しく介護拒否の強い状況がみられていた。また、職員だけでなく他の入居者に対しても手をあげる行動が多く見られ、同じフロア内の入居者にも悪影響を及ぼしていた。

対応として

- ①処方された内服薬が確実に飲めるよう工夫
- ②往診医と相談しながら内服薬の調整をしていく(気分を落ち着かせる薬の併用)
- ③スピーチロックをしない、ご本人の行動を抑える事はせずに見守る等の基本的対応を徹底
- ④職員の相性(男性職員の言葉は比較的受け入れやすい)もある為、中心に接することができるよう人員の配慮を行う
- ⑤ご家族ともに安心できるよう面会の調整
- ⑥歌が好きなため音楽クラブに参加出来るよう促していく
- ⑦散歩や季節ごとの外出レクリエーションを計画

内服薬の拒否は工夫したものの強く続いた為、医師とも相談して一番飲む可能性の高いコーヒーや

味噌汁に混ぜる事で确实投与ができるようになった。内服コントロールが行えて精神的に安定した状況で職員全員が統一した声掛けやケアを行って行く中で、暴力的な行動が無くなり、笑顔で会話できるようになった。

約半年を要したが、入居当初の目的であった安心して穏やかに施設での生活がおくれるようになってきたと考える。コロナ禍の中、⑤⑦はなかなかできない状況であったが、ご家族は少し離れた状況から見守れる事で、気持ちに余裕が出来た事もご本人にとってのプラスとなった。⑥は外部からの音楽クラブは残念ながら中止していたが、その分フロアでお好きな曲を流して口ずさめるようにした事で、歌う様子も徐々に見られるようになった。

今後ご本人の思いを尊重し、職員全員で協力しながら施設生活を援助して行きたい。